

土浦市立幼稚園適正配置(案)に関する協議会開催についての要望書

【趣旨】

土浦市立幼稚園適正配置(案)について先日の説明会を受け、到底納得のいく説明ではなく、土浦市長及び土浦市教育委員会に不満の声が上がっています。

どの園も美しく保たれ広い園庭もあり自然や地域交流を通して子供達が楽しくも切磋琢磨して過ごしています。公立の幼稚園は小学校学区内にあり地域の人たちにとって、とても安心でき大切な場所です。

130年の歴史を誇る公立幼稚園は、良質な教育を磨き上げてきました。日々子供達に接してくれている先生方も幼児教育のスペシャリストです。

歴史と文化の町・土浦の象徴的存在であり、守るに値する財産です。

長年愛されてきた公立がここ数年衰退した理由は 三年保育、延長保育、バスの運用 などの要望に答えられないことがあげられます。こういった状況は 少子化を予測した計画的な都市計画をせずに私立幼稚園の乱立を許している市の対応に原因があり、時代のニーズに合わせられない状況を生み出している市の責任であります。

子ども達の教育は誰もが平等に選択する権利があり、そして、子供達が営利の対象になってはいけないのです。

そもそも利用者や今後利用の対象になる家庭へ十分な連絡や説明 理解や配慮をしていないばかりか、昨年5月から検討を始め周知度も低い中拙速にも議会で決定してしまう危険があり、そうすると、来年度入園を予定していた地域の家庭、支援の必要な子のいる家庭、経済状況の厳しい家庭は混乱し途方に暮れてしまうことから、就学前教育を受ける事が出来なくなる可能性があります。

特に現在公立を利用している 39 人の支援の必要な子供達の中には私立から受け入れを拒否されたりしている子たちもいると聞いています。

最近では子供の貧困率の高さが問題になっていますが・・・滞納歴のある家庭も受け入れ拒否をされ貧困の連鎖が起こるのではと考えます。

公立保育園も民間へ移していく計画が進んでいます。

教育基本法第十一条 には

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培(つちか)う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。とあります。

今まで先人達が築き上げてきた土浦の誇る教育文化を私立に丸投げして良いのでしょうか？

公立幼稚園は子供達にとって何が一番大切かと常に、質の向上に努めてくれます。

町の文化を守ることが子供たちの育つ環境をより良くし、よりよい土浦を作ることになるのではないかと思います。

土浦市立幼稚園適正配置(案)については、三年保育 延長保育 バスの運用 定員数の見直し 今できるあらゆる対応をまず何かしらしてから、また改めてじっくり 検討して頂きたいです。執行部の長である市長、教育を司る教育委員会に強く要望致します。